

練習25 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

人に何かを聞かれたとき、つい使ってしまうのが「あ、それでいいですよ」という言葉。ベストではないが断るほどでもない、といったニュアンスだろう。

たとえば、帰宅して妻に「夕飯、カレーなんだけど」と言われた夫が、「ランチもカレーだったのにな」と思いながらも「ああ、それでいいよ」と答えてしまう、という感じだ。本音では「カレーが二回続くのはイヤだな」と思いながらもそれを口にしないやさしさも、そこには込められている。

しかし、「それでいいよ」と言われたほうは、そこに混じっている気配りややさしさには①なかなか気づかない。

(香山リカ『言葉のチカラ コミュニケーションレッスン』集英社)

問い ①なかなか気づかないのはだれか。

- 1 カレーでいいかどうか聞かれた人
- 2 カレーでいいかどうか聞いた人
- 3 カレーでいいと答える人
- 4 カレーはイヤだと思う人

練習26 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

まとめて助数詞と呼ぶそうだが、ものを勘定する言葉は奥深い。生き物は匹で足りると思いきや、ウサギは羽、イカは杯、チョウは頭とも数える。では、それらを生き物たらしめている命はどう数えるのだろうか。草花にも①あるから人や体ではなく、個も違う。

とりあえず、八つの命が送り出されたと書く。米国で生まれた男6人、女2人の八つ子である。680～1470グラムの未熟児(注1)ながら、帝王切開(注2)による5分の「安産」だった。八つ子は米国で2例目、全員が元気に育てば世界初のケースになるらしい。

(朝日新聞2009年1月30日)

(注1) 未熟児：普通より軽い体重で産まれた赤ちゃん

(注2) 帝王切開：出産のために行う手術

問い 何が①あるのか。

- | | |
|-------|-------|
| 1 生き物 | 2 数 |
| 3 命 | 4 助数詞 |

練習27 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

学校でも会社でも、「計算は速く正確にやれ」「^{げんみつ}厳密な答えを出せ」とばかり言われる。そうして、みんな頭がくたびれて、いつしか数がキライになっていく。「それはあまりにモッタイナイことだ」と筆者は思うのである。

数に強くなると、いろいろ^{おもしろ}面白くて、実になることが多くなる。たとえば、いつもの的確に判断できるようになるとか、物事を考えたとおりに動かせるようになる。そんなことを繰り返していると、とても自信がつく。そして、①もっとある。人が^ほ褒めそやしてくれるのである。だから、**イイ気になれる** (注1)。

そういう人は、^{わき}脇から見ていると、^{みよう}妙に自信あり気で、^{りっぱ}立派な感じに見える。^{どくしゃ}読者のみなさんのまわりにも、必ず一人はそういう人がいるはずである。

(畑村洋太郎『数に強くなる』岩波書店)

注1) イイ気になる：良い気持ちになる

問い ①もっとあるとあるが、何がもっとあるのか。

- 1 数がキライになる理由
- 2 イイ気になれること
- 3 的確に判断できるようになること
- 4 ^{おもしろ}面白くて実になること